杉崎真之助

大阪芸術大学デザイン学科
昭和49年度(1974)卒業

今月号の表紙を飾るのは、大阪芸術大学教授でグラフィックデザイナーの杉崎真之助さん。国内外での展覧会、そして講演も多く、今回の表紙の近鉄百貨店の包装紙はSHINNOSKE DESIGNの仕事です。またWingsのタイトルロゴのデザイナーで同じく大阪芸術大学教授の高橋善丸さんは同期生で、校友会誌ならではのコラボになりました。ふたりとも関西のデザインシーンにおいて、リーダー的な役割をされています。

インタビュアー
企画広報委員長　田村昭彦

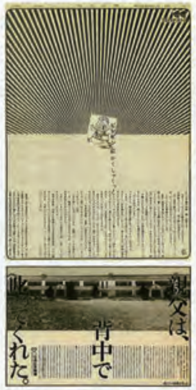
大学への進学とデザインに対して、いつどのような理由で興味を持ちましたか

小学校では図画工作が大好きで書道や画塾にも通っていたと思います。一般的に美大や芸大に入る人はそうですが、周りから絵が上手と言われながら育ったわけです。

思春期になると、当時ですから自然とエレキギターにのめり込んでいたのですが、進路を決める時期になり、将来を決めてしまわなければならない窮屈さを感じ、デザインという職業に人生を自分で決めていける自由さを感じたのです。

横尾忠則さん、粟津潔さんなどのデザイナーがスターであり、ポップアートが盛んだった頃です。

田舎だったこともあり講談社のアートナウシリーズや美術手帳などが貴重な情報源でした。受験勉強というより別冊アイデアを必死で読んだり、デッサン練習することが楽しかったのを覚えています。



上：「カネテツ新聞広告」1984
同学年であった中島らも氏との仕事。
下：「公共広告機構」1982
見出しは、古い活字を複写して切貼りして完成させた。

すべて手作業の時代、コピー機もありません。文字の切り貼りや製図ペンによる作図の連続の中から、デザインの身体感覚が身につきました。いわば0.1ミリの世界。

30歳を前にした時、デザインしかない、と思っている自分に気がつきました。グラフィックデザイナーが私の天職だ、と決心できました。スイッチが入るのが遅い(笑)。

その頃、独立して堂島の電通の近くに自分の小さなスタジオを持ちました。中之島、西天満とほぼ3年ごとに引越しを繰り返しながら、数年後にはいっぱしのデザイン会社になっていました。その頃がもっともアートディレクションや広告の仕事に打ち込んだ時期です。

学生生活での、学び、友達、遊びについてはどうでしたか

学級新聞　小学3年の時に自主制作してクラスで配ったガリ版刷。私の初めてのデザインといえる。当時はまだデザインという言葉も知らなかった。

入学するまで、学生運動がどうなっているか、ちょっと興味もあったのですが、さすがに芸大は先進の気風というか、そういうのはもう旬を過ぎていました(笑)。

卒業式での[illegible]　一番髪が長いのが私。

入学後、聞こえてきたバンド練習の音に誘われ、軽音楽倶楽部に入りました。あの頃の学生は考え方も年齢も背景も多種多様で、友人の幅や世界観が一気に大きく広がりました。

ポーズとしては体制に反抗するという当時のスタイルですが、クラスの平均水準以上に課題を仕上げて、遅れずに提出するぞ、というのは正直なところありました。いま思えば、デザイナーになるんだ、という理由のない自信、無意識の確信があったのかもしれません。

卒業後の心境の変化や転換期についてお話しください

卒業の時期を迎えた頃は「いちご白書をもう一度」が流行っていました。まさに長い髪を切る、というモラトリアム生活からの移行期でした。

それから何年間か、徹夜続きで24時間ほぼデザイン漬けの生活が続きました。

コンピュータを使うようになって、仕事に対する姿勢が変わりましたか

それまでは直観とヒラメキの短距離走者スタイルのデザイナーであったのが、パーソナルコンピュータとの出会いが最も大きな転換点になりました。

初めて見たMacintoshの画面では、白い背景に黒い文字やグラフィックが動いている。これはデザイナーの敵ではなく味方だと確信しました。いち早くデジタルな仕事環境に移行したのです。

これは、それまでのマス媒体広告から、グラフィックデザインを中心とする仕事に移行していくきっかけにもなりました。

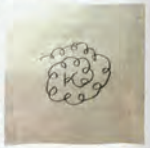
デザインは情報や伝達であり、紙やインクに依存するものではない。その本質は情報そのものにあるということに気がついたのです。

デザインの考え方と手法をお聞かせください

コンピュータを使って仕事をするようになって、情報の整理整頓と伝達を考えながら、いわば情報の建築家であるような仕事の進めかたに変わっていきます。

デザインを「理解をデザインする情報の設計」と「感動をデザインする印象の設計」と捉え、情報を構造化することで印象を伝えることがコミュニケーションデザインであると考えるようになりました。

「包装紙とショッピングバッグ」2013／近鉄百貨店　1995年以来18年ぶりにリニューアルした包装紙とショッピングバッグ。テーマは「つながる、ひろがる」。最終候補7案の中から、もっとも支持を得たデザインとして選ばれた。



百貨店の包装紙とショッピングバッグ　最初のスケッチ
何百点のアイデアスケッチのひとつ。学生には思いついたら必ずスケッチを描きなさい、と[illegible]

仕事と展覧会、作品制作で、それぞれの考え方の違いはありますか

実際の仕事と展覧会のための実験を同じ地平で捉えるようにしています。それによって、相互が影響しながらデザインの世界観を広げることができるのです。もちろん仕事は利益を生み、展覧会はその逆ですが(笑)。

デザインは課題に対して答えを出す仕事なので、展覧会のように課題を自分で探して自身に課す経験も同時に必要だと思います。

展覧会「Anonyma　アノニマ」2005／[illegible]
方形というシンプルで既定なカタチを連ねる、重ねる、増やす。感情を抑えた理性によるデザインを試みた。

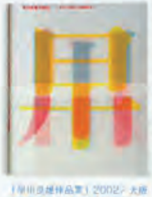
海外でのレクチャーや展覧会も多いですね

近年は国際デザイン団体の会議や講演、展覧会、ワークショップなどで海外に行くことも多いですが、その中でも学生やデザイナーとの交流は、実に楽しいし刺激的です。

とくに中国の学生と教育の現場には熱いエネルギーを感じることが多い。夜8時からレクチャーが始まり、講演の後にも学生からの質問時間が1時間以上続くのは当たり前だったりします。

展覧会とレクチャー「Simplicity and Complexity　単純と複雑」2011／ドイツ応用技術大学　ドイツ・日本150周年のジャパンウィークの一環として招待された。共同展　高橋善丸氏。

グラフィックデザイナーとして、文字についてどう考えていますか



「早川良雄作品集」2002／大阪市教育委員会／ATCミュージアム
20世紀の大阪を代表するグラフィックデザイナー、早川良雄先生のお名前を半透明の紙に重ねた。デザインの趣旨をお聞きしたら「このデザインはボクにはできないね」とひと言おっしゃられた。

グラフィックデザインにとって、文字は一番重要な要素です。言葉の意味と音をカタチにしたものが文字、文字のしゃべり方が文字組だと考えます。タイポグラフィを、文字を組むことから要素を組むこと、さらに情報やコミュニケーションを組むことだと捉えると、とてもおもしろい。

金属活字からデジタルフォントになり、文字は自由に表現できます。「文字の織物」と名づけた習作の中から多くの作品が生まれました。

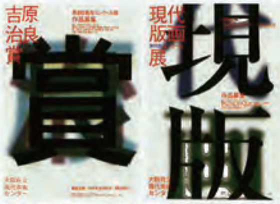
現在、大阪芸術大学では、どのような教育をしていますか

教授として着任し、再び大学に来るようになりました。1年生の授業では、最初に学生たちに「皆さんの座っている席に30数年前、私も座っていた」と話します。これからの長い道のりに対する学生への密かなエールのつもりなんです。

身近にデザインといわれるものが無数にあふれているので、学生はデザインとは何かを理解しているつもりで入学してきます。なので授業では「作るデザイン」の前に「考えるデザイン」から始めます。

近年、教育成果を講師のデザイナー本人の作品にするといった傾向が少なからず見かけられます。しかし、あくまでも教育・研究の成果は学生に、というふうに考えるべきです。こう思うのは、高校の校長で名物先生だった父や、小学校の先生を務め上げた母の姿を見ていたことが、結果として影響しているのかもしれません。

このページは杉崎真之助さんご本人に構成していただきました。



「吉原治良賞」1995「現代版画展」1996／現代美術センター
1994年から10年間、大阪府立現代美術センターの仕事に関わった。文字を重ねると音や意味が消え、カタチだけが浮き出てくる。

1年生の「グラフィックデザイン基礎」の授業
身近なモチーフを出発点に、デザインの仕組みと幅広さ、奥深さ、社会との関わりを体験的に学ぶ。

プロフィール

グラフィックデザイナー
株式会社 SHINNOSKE DESIGN 代表
大阪芸術大学デザイン学科教授

昭和28年(1953)奈良県生まれ。
デザインを、感動を創造するために情報を構築するプロセスと捉え、明快で良質なコミュニケーションの実現をめざす。一貫したデザイン理念で文化関連から企業のブランディング、空間計画まで、幅広く活動。新しい試みを精力的に発表し、国内外の美術館、大学で多くの展覧会や講演を行う。ニューヨークADC特別賞、ニューヨークTDC優秀賞、HKDAアジアデザインアワード銀・銅賞、台湾国際グラフィックデザイン銀・銅賞、日本タイポグラフ年鑑ベストワーク賞、グッドデザイン賞の他、国際コンクールで数々の賞を獲得。AGI会員、JAGDA運営委員、JTA理事、DAS理事、東京TDC会員。

ホームページ：shinn.co.jp
Eメール：shinn@shinn.co.jp
Twitter：shinn@shinn.co.jp

[illegible]にある事務所
ビルの前に川があり、朝、昼、夕方に顔が変わる。ここに引っ越して20年以上になる。